

Homework 05

ことばを科学する：人間の再発見（主題別科目：思索と言語）

2013 年度 2 学期

奥 聡

(A)

添付の文書、メレール&デュプー『赤ちゃんは知っている 認知科学のフロンティア』（藤原書店：pp.281-295）「音と言語カテゴリー」および「忘却による学習」を読んで以下の問いに答えなさい。

1. 次のうち「音と言語カテゴリー」の節で著者たちが述べていることとは異なるものを 2 つ選びなさい。
 - a. 生後 1 か月の赤ん坊も /p/ と /b/ の区別ができる
 - b. /p/ 音と /b/ 音の間には、物理的に大きな句切れ目がある
 - c. 図表 14 (p.285) のグループ O は、実験統制群で、点線の前後で同じ音を聞かせた
 - d. 人間以外の動物は人間と同じやり方で、言語音を区別する能力は持っていない
 - e. 人間が言語音を区別する能力は、生まれつきの能力と言える
 - f. 赤ん坊は言語音を話す人や話すスピードが変わると、同じ音でも認識が困難になる
2. 次のうち「忘却による学習」の節で著者たちが述べていることとは異なるものを 2 つ選びなさい。
 - a. 人間の子どもは、初めは区別できなかった言語音の区別を言語に触れながら育つことによって、区別できるようになる
 - b. 子どもは 2 歳になるころに母語に必要な言語音の区別を無視するようになる
 - c. 日本人でも、/r/ と /l/ が物理的に異なる音であることは、認識できる
 - d. 二つの異なる言語にバランスよく触れながら育っても、どちらか一方の言語が必ず優位になる
 - e. 多言語環境で育っても、言語を混同して、言語獲得に支障をきたすことはないと考えられる
 - f. 赤ん坊は母語のイントネーションの特徴を、生後 3 週間までには、コード化する

(B)

添付の「子音体系」の表（西光義弘（他）『日英語対照による英語学概論（増補版）』（くろしお出版、p.14））を参考に、各音素の名前を下から記号で選びなさい。

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. /h/ | 2. /s/ | 3. /g/ | 4. /n/ |
| 5. /w/ | 6. /t/ | 7. /b/ | |

選択肢（一つ余ります）

- | | | |
|------------|------------|------------|
| a. 有声両唇閉鎖音 | b. 無声歯茎閉鎖音 | c. 声門摩擦音 |
| d. 歯茎鼻音 | e. 無声両唇閉鎖音 | f. 無声歯茎摩擦音 |

g. 両唇半母音

h. 有声軟口蓋閉鎖音

(C)

メレール&デュプー『赤ちゃんは知っている 認知科学のフロンティア』（藤原書店：pp.281-295）「音と言語カテゴリー」および「忘却による学習」を読んだ感想を自由に書きなさい。